

## ● 弥千代姫復縁150年記念講演会「萬代のさかえ」開催

令和4年10月2日（日）玉藻公園、披雲閣大書院にて、弥千代姫復縁150年記念イベント「萬代のさかえ」を開催しました。この日のために舞踊や民謡、和歌などの愛好家が実行委員会を立ち上げ準備を進めてきました。

令和4年は、高松藩最後の藩主松平頼聡公と彦根藩井伊直弼の次女弥千代姫の復縁150年の年です。頼聡公と弥千代姫は混乱を極めた幕末に結婚しますが、時代に翻弄され離縁するも、明治5年に再婚します。二人の半生は苦労の連続でした。復縁後も旧領地であった香川県は消滅し、高松に戻れぬ重苦しい日々を送っていました。ついに明治21年、悲願だった香川県は誕生し、明治24年二人は高松の地を踏むことが出来ました。

それから、弥千代姫は何度も何度も東京一高松を往復し、香川の人々と親しく交わり、励まし、頼聡公と息子頼寿伯と共に香川の発展に力を尽くします。



頼聡公と弥千代姫の復縁がなければ、香川県はなかったかもしれない！二人の復縁は香川県にとって大変重要な出来事だったのです。明治24年5月、弥千代姫は初めて玉藻城を訪れます。その時詠んだ歌「萬代のさかえをこめしいにしえの 根さしをあふく たかまつのかげ」からイベントのタイトルを付けました。

講演は公益財団法人松平公益会、佐伯勉理事長による「その時高松松平家の歴史は動いた」と題して、高松藩と彦根藩の関係など分かりやすくお話いただきました。

その他、御殿女中による一合まいたや、菊池寛の孫、菊池夏樹氏からのメッセージ、日舞「武営節」、試食、和歌の朗詠、立版古やミニ姫着物の展示など盛りだくさんの内容でした。集まった80名の皆様と復縁150年をお祝いしました。

（弥千代姫復縁150年実行委員会  
寒川かおり 桜木直美）

## ● 高松城の復元活動にご賛同頂いている法人会員

（公財）松平公益会、（宗）石清尾八幡神社、高松市婦人団体連絡協議会、高松市茶華道協会、高松市大工町自治会、香川県造園事業協同組合（玉藻公園指定管理者）、高松丸亀町商店街振興組合、高松市観光ボランティアガイド協会、（公）高松青年会議所、（株）香川経済レポート社、香川証券（株）、（株）喜代美山荘（花樹海）、ネットヨタ高松（株）、（株）二蝶、高松帝酸（株）、（株）香西工務店、高松商運（株）、久米加（株）、（株）森造園、（株）ネクサス、高尾石材（株）、四国興業（株）、（株）アムロン、大塚整形外科医院、清水建設（株）四国支店、（株）安藤・間四国支店、後藤設備工業（株）、三条山下内科医院、（株）オーディオサミット、（有）角田米穀店、（株）EBiSU、西日本土木（株）、日本舞踊藤間流「勘雅智枝会」、小手毬、（株）朝日段ボール、（株）フェアリーテイル、ハウス美装工業（株）、藤本秀久邦社中、北浜alley（株）、大樹生命保険（株）高松支社、（株）ツグ炭酸工業（順不同）  
【協賛団体】 高松商工会議所、高松観光コンベンションビューロー、高松玉藻ライオンズクラブ、香川経済同友会（順不同）

## 特定非営利活動法人 高松城の復元を進める市民の会

（事務局）〒760-0029 高松市丸亀町13番地2（高松丸亀町商店街振興組合内）

TEL：087-823-0001 FAX：087-823-0730

ホームページ <http://www.takamatsujyo.jp/>

高松城の復元

検索



特定非営利活動法人 高松城の復元を進める市民の会

第11号

# 高松城復元かわら版

令和5年1月発行

## ● 桜御門開門式典 協賛行事を華やかに実施

本会では、桜御門の落成を祝う高松市の「開門式典」に協賛するかたちで何かできることはないかと、役員会を何度も開き協議を重ねてきました。その結果、7月16日の当日、披雲閣大書院において

※桜御門復元祝い唄など

・・・龍雲相撲甚句会

※高松城の唄と踊り

・・・美智景会 北岡美智子

※端唄「高松十二万石」

・・・藤間勘雅智枝会 藤間勘雅智枝

※御殿女中による「一合まいた」

・・・わだもん 寒川かおり他

の出し物で賑やかに祝いする他、会場には逢坂貴良さん制作の「立版古（ペーパークラフト）」を飾り付けて殿中の雰囲気をつくることにしました。また、来場者には、紅白の祝餅を配るということでたくさん用意をしました。

この77年ぶりの慶事を祝う行事を実施するにあたっては、役員はじめ会員有志が大変暑い中でしたが、分担・協力して準備をしました。

そして、玉藻公園の歴史的慶事に見事花を添えることができたと考えております。皆さん、大変お疲れさまでした。

また、桜御門落成までの記録をDVDに編集・制作し、会員の皆さまにお届けしました。

次ページは熱演の1コマです。

（事務局）

## ● 理事長 新年ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。高松城の復元を進める市民の会、会員の皆様には心穏やかなお正月をお迎えのことと、心よりお慶びを申し上げます。

昨年もコロナ禍は、縮小、拡大を繰り返し、いつ終わるやも知れぬ情勢の中で、理事会、総会、6月の松江城の見学会以外には大した活動が行えませんでした。しかし、いよいよ長年にわたり待ち望んできた桜御門の完成を迎え、去る7月16日に盛大に開門式が執り行われました。今回の完成に合わせ、お城の会では故実に則り、三張の幔幕の寄贈を行いました。式典には私もお城の会代表として出席させていただき、ご挨拶と、その後寄贈した幔幕の目録を大西市長に手渡し、感謝状を頂戴いたしました。完成した御門の実物は、古い写真で見ると遥かに堂々

として威厳があり、御門の名にふさわしい出来栄えだと思えます。また寄贈した幔幕も風景に映え、美しく靡いております。ぜひ、多くの方にご覧になって戴きたいと思えます。

これを契機に、いよいよ天守閣の再興へと駒を進める時期が参りました。大西市長も、次期選挙の公約に天守閣の再興を掲げており、桜御門の完成を経て、実現に向けて動き始める時期はやってきたと言うことです。

コロナ禍の一刻も早い収束を願いつつ、お城の会でも、活動を活発化させたいと願っております。会員皆様の更なるご理解、ご協力、ご支援を心からお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

（古川 康造）

# 桜御門開門式典協賛行事



左：高松城の復元を進める市民の会  
理事長 古川 康造 様  
中央：高松松平家14代当主 松平 頼武 様  
右：(公財)松平公益会理事長 佐伯 勉 様



龍雲相撲甚句会  
「桜御門祝い唄」など

77年ぶりに桜御門復元  
(披雲閣御殿の正門)



令和4年7月16日(土)  
披雲閣 大書院



美智景会  
「高松城」の唄と踊り



藤間勘雅智枝会  
端唄「高松十二万石」

次は、  
お城の復元を  
ぜひ!



立版古  
逢坂貴良

本物はどれ?



わだもん 「御殿女中による一合まい」



お殿様も一緒に  
「一合まい」



## ● 松江城登城記

去る6月28日、「高松城復元市民の会」主催のお城見学会に17名の皆さんと一緒に参加しました。今回は松江城でした。

この城は、江戸時代から現在に至るまで幾多の危機（一国一城令・廃城令・戦災）や改修ならびに修理等を経て、築城当時の雄姿を現在の私達に見せてくれる山陰地方唯一のお城です。外観は4重、内部構造は5階、地下1階の造りで、入口に附櫓を設けた複合式・望楼型に分類されます。築城は慶長5年（1600年）の関ヶ原合戦後に、出雲及び隠岐両国を拝領した堀尾忠氏とその父吉晴が約5年の歳月を要して築き、堀尾氏2代・京極氏1代・松平氏10代と続き、島根県の県都・松江市の繁栄の礎を築いた城であります。

そして、天守は平成27年7月に全国に現存する天守の12番目として、63年ぶりに国宝に指定されたお城です。国宝の指定にあたり問題となったのは、天守閣がいつ完成されたのか？ということがわかる資料（根拠）でした。

それについては、江戸時代中頃（宝暦年間）に書かれた書物の中に、慶長12年（1607年）より普請が始まり慶長16年（1611年）までに城が成就した、との記述があり、その証拠として松江神社所蔵の棟札類の中から慶長16年（1611年）の完成を裏付ける二つの祈禱札が発見されました。札の上下2つの釘穴と柱の表面の2つの釘穴が一

致したため、築城当時の資料によって建築年代が確認できる極めて希少な例であるとして、国宝に指定されました。

また、天守閣を支える柱308本の内、103本が包板（寄木柱）で構築されていると説明があり、実際、分厚い鉄板で細い木がたくさん束ねられているところを間近かで見ることができ、当時の苦勞と技術の高さに感心しました。

以前、広島大学名誉教授・三浦正幸先生の講演の中で、高松城の天守復元にあたり、当時の生駒氏は材料には拘わらなかったと考えられることから、檜でも無節の高価な物は使わず、ローコストの材料を使用して復元すればいいのではないかと、言っておられたのを思い出しました。

去る7月には高松市民の悲願であった桜御門が77年ぶりに復元されました。そして、いよいよ次は天守閣の復元です。会員として微力ながら天守閣復元のためのお手伝いをさせて頂きたいと考えております。

最後に視察研修会を企画された関係者各位並びにガイドをしていただいた長谷川文昭さん、田部泰正さんに厚く御礼申し上げます。

(山地 宏和)



### 松江城山公園管理事務所のパンフレットによると

「国宝松江城天守は全国に現存する12天守のひとつで、城郭建築の最盛期である慶長時代を代表するものです。

明治初頭、全国の多くの城が取り壊される中、松江城天守は旧松江藩士高城権八や豪農勝部本右衛門親子らの奔走によって取り壊しを免れ、以降も市民の手によって守られ、今日に伝えられています。」とあります。



松江城天守閣前で記念撮影